

科目名	国際観光論A International Tourism A						
科目担当者	墨 昌芳 SUMI Masayoshi						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	人口減少・少子高齢化が進むわが国において、観光の果たすべき役割、特に海外より日本に観光客を迎え入れるインバウンド・ツーリズムが注目されています。本講義では、はじめにUNWTO（国連世界観光機関）が提唱する国際観光の在り方について学び、次に、19世紀半ばに欧州で始まるマス・ツーリズムとその時代背景から、現在に至るまでの世界の観光の流れを体系的に学習します。その後、観光先進国が集積するEUにおける観光立国のインバウンドおよび観光地域づくり政策を中心に学び、日本のインバウンド政策との比較考察を行います。講義スタイルは、板書およびスライドを利用したプレゼンテーションで、雑誌やパンフレットの記事なども活用しながら詳しく解説していきます。						
授業の到達目標	①インバウンド・ツーリズムの歴史、特徴を理解する。 ②日本及び観光先進国の取り組み（政府・民間）を理解する。 ③観光に関する知識を身に付け、観光が抱える問題に、自分自身で対策を考えることが出来る。						
授業計画・内容	1	ガイダンス：観光を学ぶ意味、観光の重要性、講義の概要					
	2	観光の定義、観光の語源、観光関連用語					
	3	観光の歴史、UNWTO（国連世界観光機関）の役割					
	4	19世紀半ばにおけるマス・ツーリズム発生の意義					
	5	欧州各国の観光政策（特にインバウンド・ツーリズム）					
	6	欧州各国におけるTOURISM INDUSTRIESの重要性と、条件不利地域の観光振興の取り組み					
	7	フランスと英国における観光振興の特徴					
	8	ドイツとオーストリアにおける観光振興の特徴					
	9	イタリア、スペイン、ギリシャにおける観光振興の特徴					
	10	日本の観光政策①（インバウンド政策）					
	11	日本の観光政策②（アウトバウンド政策）					
	12	ビジット・ジャパン・キャンペーンに関して					
	13	ビジット・ジャパン・キャンペーンの評価・検証					
	14	各自自治体による訪日外国人誘致活動（事例研究①）					
	15	各自自治体による訪日外国人誘致活動（事例研究②）					
授業外学修 (事前学修)							
授業外学修 (事後学修)	授業内容について分からない点などを復習し、不明点を調べておく（毎週2時間程度、合計30時間） 課題を作成する（30時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	定期試験 課題の提出 授業中の小テスト				50% 30% 20%		①、②、③ ①、②、③ ①、②、③
成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	教科書は特に使用しない。教材を必要に応じて（ほぼ毎週）配布する。また、必要に応じて新聞や雑誌の記事、あるいは論文等を配布する。						
参考文献	国土交通省観光庁『令和5年版 観光白書』日経印刷 （上記の観光白書は、国土交通省のホームページ上から全文無料で入手可能） 山下晋司『観光学キーワード』有斐閣 中尾清・浦達雄『観光学入門』晃洋書房						
その他	<どのような学生の受講が望ましいのか> 観光に興味がある学生 観光産業に就職を考えている学生						